

## 1. 活動のテーマ

### <テーマ>

動き 0歳児から5歳児  
～環境構成により引き出される保持動作と跳躍動作の統合および体幹機能と身体調整力の向上～

### <テーマの設定理由>

子どもたちは、布製の柔らかい玩具に親しみを持ち、抱える・運ぶ・落とさないように工夫するなど、身体全体を使った遊びを楽しんでいる。動物や海の生き物のぬいぐるみは想像力を刺激し、年齢に応じた遊び方の広がりが見られる。ぬいぐるみを「どれだけ抱えて持てるか」「落とさないように身体をどう動かすか」という遊びを通して、子どもたちが自分の身体の使い方を意識しながら動きを工夫する姿に着目し、本テーマを設定した。

## 2. 活動スケジュール

- ・布製ぬいぐるみの紹介
- ・年齢ごとに抱えて持つ遊び
- ・大量に持ったままジャンプする遊びへ展開
- ・遊びの振り返り
- ・職員会議での振り返り 主に6月から12月に活動を各クラス展開

## 3. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

動物や海の生き物をモチーフにした布製のぬいぐるみを多数用意した。床に広げ、子どもたちが自由に手に取れるようにし、転倒しないよう十分なスペースを確保して活動を行った。

- ・活動の内容、活動中見られた子どもの姿、教諭との関わり等

はじめに、年齢ごとに「どれだけ抱えて持てるか」を試す遊びを行った。子どもたちは腕いっぱい抱えたり、胸に押し当てたりしながら自分なりに持ち方を工夫していた。年齢が上がるにつれ、数を増やそうと考えながら慎重に身体を動かす姿が見られた。次に、大量のぬいぐるみを抱えたままジャンプし、落とさないようにする遊びへと発展した。子どもたちは膝を曲げて小さく跳んだり、身体を安定させようと足を踏ん張ったりしながら、動きを調整していた。保育者は「どうしたら落ちないかな」と声をかけ、子ども自身が動きを考えられるよう関わった。

- ・活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり

「いっぱいもてた」「おちちゃった」「もういっかい!」と声を上げながら、友だちと数を比べたり、持ち方をまねしたりする姿が見られた。成功や失敗を共有し合う中で、挑戦する意欲が高まっていった。



#### 4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動後、クラス会議および職員会議で振り返りを行った。年齢によって抱えられる量や動きの安定感に違いがあり、それぞれの発達段階が動きに表れていることを改めて確認した。

また、ジャンプをする際に、子どもたちが自然と膝や体幹を意識し、動きを調整していた点が印象的であった。遊びの中で無理なく身体の使い方を学んでいることに気づき、今後も素材やルールを工夫しながら、子ども自身が動きを探究できる活動を取り入れていきたい。